

たことを杜甫の詩の例を引きながら論じられている。そして「返照」の「返」も「反照」の場合と同様に西から東へかえすという意味にとるべきだとまとめられている。

（「返景」「返照」考 二二二～二三〇頁）

「三句目」「誤雲獨宿欄」「四句目」「疑鶴未歸田」の表現について」

既に先学より指摘されている（『平安時代文学と白氏文集 道真の文学研究篇第二冊』金子彦二郎著 三九五～三九六頁）事だが、この表現には次の『白氏文集』の投影が濃厚である。

2624 和劉朗中望終南山秋雪（劉朗中が終南山の秋雪を望むに和す）

遍覽古今集 遍く古今の集を覽るに

都無秋雪詩 都て秋雪の詩無し

陽春先唱後 陽春先づ唱へて後

陰嶺未消時 陰嶺未だ消えざる時

草訝霜凝重 草には霜の凝^こつて重きかと訝^{いぶか}り、

松疑鶴散遲 松には鶴の散ずること遅きかと疑ふ

清光莫獨占 清光独り占^しむる莫く

亦對白雲司 亦対す 白雲の司

（續國譯漢文大成『白楽天詩集三二』（傍線筆者）